

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171000488		
法人名	医療法人社団福寿会		
事業所名	コスモス苑「夕焼け小焼け」		
所在地	岐阜県郡上市白鳥町白鳥408番地1		
自己評価作成日	令和4年10月7日	評価結果市町村受理日	令和5年2月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2171000488-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和4年10月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

町の中心に近いという環境の中で、地域との交流を深めながら、その地域の一員としての意識を持ち、日々の生活の中で生きがいを感じ心穏やかに生活できるような空間づくりに取り組んでいる。医療法人社団福寿会として、グループホームのほか小規模多機能型居宅介護、特定施設入居者生活介護、短期入所者生活介護など、各施設と連携を取りながら、入所者様やご家族様の希望に沿った総合的な支援に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人社団が運営する福祉サービスが敷地内に点在しており、総合的に支援できる福祉ゾーンとなっている。町の中心に近く、事業所の駐車場は、盆踊りや園児の鼓笛隊披露、地域との交流を深める場となっている。コロナ禍で地域との交流や外出自粛が続いているが、職員と利用者が、無農薬で育てた野菜や果物で大根の漬物、干し柿、ジャム、梅ジュース作り、園児にプレゼントするお菓子袋詰めなどを行い、出来ない人も作業を見ることで一体感を味わえるよう支援している。コロナ禍ではあるが、利用者が日々の暮らしの中で、憂いある時間を笑顔で過ごせるよう取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない ○(コロナ) 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームの目につく場所に事業所理念を提示し、スタッフ全員の理念の実践につながっている	職員は入職時に理念を学び、会議や内部研修等で理念を振り返っている。スタッフルームにも掲示し、理念に沿ったケアについて意識化を図っている。技能実習生には、面接時から理念について説明している。家族への重要事項説明書にも理念の記載がある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所と地域のつながりの場として苑庭を開放し、園児のイベントや地域主催の盆踊りなど交流の場所となっている。(今現在はコロナ化の為制限している時がある)	同一法人の事業所が複数点在している苑庭は、地域に開放されており、利用者と住民と一緒に外気浴を楽しむなど、自然に交流が生まれている。コロナ禍で各種行事が自粛されていたが、地域の盆踊りや園児の鼓笛隊発表が再開され、徐々に地域との関係が復活しつつある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当施設が積み上げてきた介護支援方法など地域の人にもスムーズに発信できるように心掛けをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎月行う責任者会議やケア会議で意見を出し合い、利用者様や家族様の支援を向上した方法でサービスに生かしている。	運営推進会議の開催については、市と相談し、中止となっている。市には中止を報告する書面を提出しているが、会議の構成メンバーに、コロナ禍での事業所運営の報告はしていない。	運営推進会議は中止であるが、メンバーにはコロナ禍での運営状況の報告や意見を求める等、書面開催としての記録を残すことが望ましい。中止の間に役員交代がある場合もあり、スムーズな再開につながる取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月に一度市役所からの相談員の訪問(現在リモート)で利用者様の本音の気持ちを聞いて日々のケアサービスに務めている。	以前は介護相談員の訪問面談があったが、現在は、毎月、リモートで利用者と面談し、その報告内容をケアに活かしている。また、福祉の避難所として災害時に高齢者を受け入れた事例もあり、市と緊密に防災連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様を見守る中で、利用者様個人の性格など理解して拘束を行わない介護支援に取り組んでいる。	毎月のケア会議の中で、身体拘束や虐待についての研修を行っている。無記名で虐待に関するセルフチェックと自由記述のアンケートを全職員対象に実施している。結果を幹部で分析し、対策を講じている。やむを得ず身体拘束が必要な場合は、医師を含むメンバーで検討し、早期の解除を目指している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修会で学び虐待防止は徹底している。又、スタッフ同士でお互いに注意しあい、虐待につながる介護支援をしている。		

岐阜県 コスモス苑「夕焼け小焼け」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度は学んで理解している。現在この制度を必要とされる利用者様はいないが、必要とされる場合には活用できるよう支援をする。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約に関することは、ご家族様に丁寧に説明してご理解と納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族様の要望は日常生活や会話で意図を汲み取るようにし、要望があればその都度お伺いをしている。	以前は、敬老会に家族を招待し、総勢約150人分の食事を用意して親睦を図っていた。現在は、リモートや窓越し面会時に家族の要望を聞いたり、利用者の様子を説明しながら、家族との信頼関係作りに努めている。「便り」で新任や異動職員の報告もしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ケア会議で職員の意見、要望、提案を聞き、その後の介護支援の参考にしている。	毎月のケア会議は職員が自由に発言できる環境にあり、意見や要望を運営に反映させている。職員間の協力で、二つのフロアの利用者を区別せずに対応する支援体制ができている。技能実習生の受け入れで、懸命に学ぶ姿勢が職員の刺激になり、モチベーションアップにつながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務の条件、スキルアップにつながる配慮はされている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の参加、資格取得の支援はされている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今現在はコロナ禍もあり、実現されてはいないが研修会等で交流があることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様との信頼関係はその後の介護支援に大切なことと位置づけ、ご本人の安心な生活のためにふれあい、会話をもって接している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様との信頼関係は困りごとなど傾聴し、利用者様と同じように支援の対象として心を寄せている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様の要望にも寄り添いながら、利用者様本位の支援ができるように両立する支援を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の個性を大切に日頃接していく中で、できること、出来ないこと、習慣等笑顔が生まれることを探りながら関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りでは、利用者様の現状状態報告と共にご家族様からの要望があればお聞きし、支援につなげている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室には、なじみの部屋飾りや写真などこれまでの暮らしと急に変化がないように対応している。(現在コロナ化で途絶えている場所や友人との交流も再開できるようにしていく。	現在、直接の面会は制限しているが、リモート面会やガラス越し面会で、関係が途切れないよう配慮している。法人敷地内にある他サービス利用者とは、苑庭で会うこともある。歩いて行ける馴染みの美容院は継続して利用している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の個性を把握したうえで共通場所(フロア)での席を考え楽しく生活していただけるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナ禍が収まれば退所された方や他施設に移られた方にも面会など考えて、利用者様と他との交流も考えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との会話の中で希望や要望を汲み取り喜びや笑顔が生まれる支援をしている。	入居時のアセスメントで、本人と家族の意向を把握し、その後は日常生活での会話内容やケア会議、申し送りノートで情報を共有している。ICT化を検討したが、データ処理で表せない本人の思いや職員の気づきを反映させたケア計画を重視し、見送っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の生活歴や暮らし方など、ご本人や家族様からお聞きし、支援の参考にしつつなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の日々の過ごし方や心身状態など細かく記録して、次の支援に生かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケア会議で利用者様の現状報告と共に支援方法の見直しを行い、次の支援に生かしている。	独自の意向シートでケア計画を作成している。作成後は介護記録や申し送りを参考に、ケア会議で共有しモニタリングを行っている。「医療・介護・栄養」と職種の違う職員が、多面的に利用者像を捉えたモニタリングで現状に沿ったケア計画になっている。	定期的にモニタリングを行っている。モニタリング結果をケアに活かし、今後の介護計画に繋げるには、職員間で情報を共有できるよう、適切にデータや書類の管理を行うことが望ましい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや個別記録で利用者様の様子、状態を記入し、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当施設では介護職員、看護師、栄養管理士と多様な支援チームで、より良いサービスが提供できている。		

岐阜県 コスモス苑「夕焼け小焼け」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	住み慣れた地域で、自分らしい生活を最後の時まで生活し続けていただくために、安心、安全な生活を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と連携をとって、ご家族様の協力のもと、適切な医療が受けられるように支援している。	入居前のかかりつけ医を選択し、家族同行での受診を継続する利用者もある。協力医による住診は月2回ある。市共通の「医療・介護連携シート」があるが、法人でオリジナル版を作り、活用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と看護職員で常に連絡を取り合い、適切な医療を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院のケアワーカーと常に細かい情報交換をすることで、入退院をスムーズにできるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した場合や終末期には直ぐにご家族様に報告をして、施設側でできることを説明して、共に支援に取り組んでいる。	コロナ禍であったが、数件の看取り支援を実施している。出入り口を別に設けるなど、感染対策を講じた上で、看取り期の面会を可能にした。医師、看護師、介護職員、管理栄養士等の連携の下、最期まで、利用者と家族が穏やかな時間を持てるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療チームと介護チームが連携を取り合っており、緊急時にも対応できる体制を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策として利用者様と職員が一緒になって避難訓練を行い、利用者様の安全を確保できる体制を整え、また、地域の方との協力体制も築けている。	利用者も防災頭巾をかぶり、避難訓練に参加している。地域住民と話し合う機会もあり、住民も傍観者ではなく役割を決めるなど、避難時の協力体制ができている。停電時のヘッドランプやランタン、食品の備蓄も用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員の申し送あわせで常にプライバシーに配慮した対応や言葉かけを心掛けている。	従前の排泄習慣に配慮した男性用の立ち便器トイレの設置もある。携帯所持の利用者には、居室や静かな場所での通話を促し、プライバシーを守れるよう支援しながら、自己決定の場面を作り支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の支援のなかで、利用者様が自己決定できるような言葉かけを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりの生活の中ペースを把握し本人のペースで行動できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の利用者様には、美容院へお連れしたり身だしなみやおしゃれに気を配るようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの食事能力が違うので、おいしく食べて頂くように材料の説明をしたり、食事を楽しめるよう力添えをしている。できる利用者様には片付けのお手伝いをお願いしている。	畑で収穫した野菜や苑庭の果実等を行事食やおやつに利用し、食べる楽しみに繋げている。管理栄養士による献立を専属の職員が調理している。数年前から、利用者がメニューで月の始まりと曜日を認識できるよう、月初めには小豆ご飯、日曜朝食はパンと決めて提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士と相談して量や水分量、バランスなど決定して一人ひとりの状態を確認しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態を把握し、毎食後の口腔ケアを促し、夜間は義歯をお預かりして洗浄して朝はきれいな義歯をお渡ししている。		

岐阜県 コスモス苑「夕焼け小焼け」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンをつかみ、トイレで排泄できるように決まった時間にトイレに促す支援を行っている。またその都度記録を残している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を支援している。利用者の状態に合った排泄用品であるか、常に職員間で検討し選択している。1ユニット3箇所に、一般用、車椅子用、男性用のトイレがあり、利用者が分かり易いよう、「便所」と大きく表示している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	軽い運動や水分補給をしていただき、便秘などの不調が長く続かないように工夫し、個々に応じたスムーズな排便ができるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの状態に合わせて入浴していただき、当日入浴を拒否されたら後回しにしたり、後日に回したりと、個々に沿った支援をしている。	重度化や体力低下の利用者が増えた為、浴室を改修しリフトを導入している。今は安全のため、全員がリフトを使用している。座位が取れない人はストレッチャーを使い、職員2人介助で対応している。入浴拒否の人には、声かけを工夫したり、介助者や時間の変更で支援につなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の環境を整え、夜の入眠はもちろん、昼間の休憩も安心して休んでいただけるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に合った服薬支援を行っている。病状に変化があれば直ぐに看護職員や医師に報告して病状に合った服薬支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活に張り合いが生まれるように、一人ひとりに合った役割やレクレーションを楽しんでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	例年は買い物、図書館、散歩など戸外での支援を行っていたが、コロナ禍にあつて近場の散歩や外気浴を支援している。	天気の良い日には苑庭にあるベンチで外気浴を楽しんでいる。敷地内に、イチジク、ブルーベリー、ゆすら梅、柿、びわ、サクランボなどの果樹が植えてある。苑内の散歩で果実の生育ぶりを見ながら、季節も満喫できる。コロナ禍でカフェ棟の利用を中止していたが、現在は再開している。	

岐阜県 コスモス苑「夕焼け小焼け」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	美容院へお連れした時など一人ひとりの能力に合わせてご本人にお金の支払いをしていただくなど支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様のご希望があればご家族様に電話をかけて取り次ぎ、手紙を書かれる利用者様には郵送するようにお手伝いをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に環境整備に務めて、居心地よく過ごしていただけるように努力している。	感染対策のため共有スペースには入室せず、タブレット画像で確認した。利用者が作成した季節にちなんだ作品が掲示されている。手作りの大きなカレンダーをフロア壁面に掲げ、その日を○で囲い利用者がわかるように示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでは気の合う人同士近い席にしたり、本を読んだり、塗り絵をされたりなど、利用様には思い通りに過ごして頂くよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の居室には写真を飾り、なじみの物を置くなどして安心して居心地よく過ごしていただけるように工夫している。	各居室に備え付けの棚があり、家族の写真や小物、自分の作品などを飾っている。全ての居室の窓から明るい陽射しが入る。冬場は備え付けのエアコンに加え、各自が電気毛布やアンカなどを持ち込むことができ、快適に過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は平屋で段差がなく安心して自由に歩いている。また、フロア以外にも椅子を置いて気に入った場所で休んでいただけるように工夫している。		